

令和5年度 第1回市政モニターアンケート調査結果

1 アンケート内容

テーマ	救急医療に関するアンケート（所管課：地域医療課）
目的	救急医療に対するニーズ等を把握し、救急医療方策に関する指針の見直しの検討材料とするため。
項目	15項目 ・休日・夜間急病センターについて ・電話相談窓口について ・救急車について ・救急医療体制について など
対象	令和5年度市政モニター（225名）
方法	姫路市公式アプリ「ひめじプラス」のアンケート機能を活用
期間	令和5年5月15日（月）から令和5年5月28日（日）まで

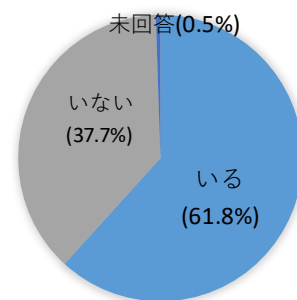
2 回答状況

有効回答数	191件																						
回答率	84.9%																						
回答者の属性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～29歳</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>25.1%</td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>29.8%</td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>20.4%</td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>14.7%</td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>8.9%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	属性	割合	20～29歳	1.0%	30～39歳	25.1%	40～49歳	29.8%	50～59歳	20.4%	60～69歳	14.7%	70歳以上	8.9%	性別	割合	男性	28%	女性	71%	その他	1%
属性	割合																						
20～29歳	1.0%																						
30～39歳	25.1%																						
40～49歳	29.8%																						
50～59歳	20.4%																						
60～69歳	14.7%																						
70歳以上	8.9%																						
性別	割合																						
男性	28%																						
女性	71%																						
その他	1%																						

回答集計

質問1：かかりつけ医はいますか。

No.	回答	人数	割合
1	いる	118	(61.8%)
2	いない	72	(37.7%)
3	未回答	1	(0.5%)



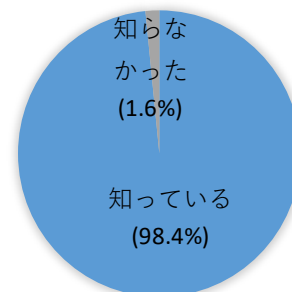
【質問1のまとめ】

救急医療の適正利用を進めるためには、市民がかかりつけ医を持ち、日頃から必要な受診を行うことで、健康管理に努めることが必要です。

問1で、かかりつけ医の有無をお聞きしたところ、「いる」との回答が61.8%あり、約6割強の方にかかりつけ医がいらっしゃるということが分かりました。平成29年度の救急医療に関する市民意識調査においては、かかりつけ医がいる方は約7割でした。一定の割合でかかりつけ医を持つことの定着が図られている様子が見えませんが、約1割の減少となるため、かかりつけ医を持つことについて、今後の啓発活動が必要であると考えられます。

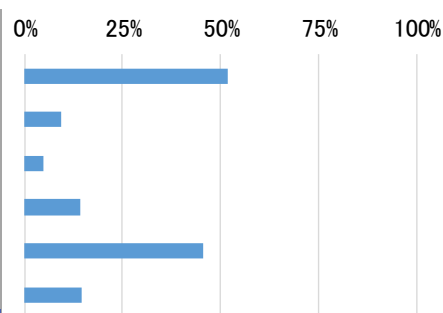
質問2：休日や夜間における救急患者に対応するため、休日・夜間急病センターがあることを知っていますか。

No.	回答	人数	割合
1	知っている(問3へ)	188	(98.4%)
2	知らなかった(問6へ)	3	(1.6%)



質問3：問2において「知っている」と答えられた方におたずねします。休日・夜間急病センターのことをどうやって知りましたか。(複数回答可)

No.	回答	人数	割合
1	市の広報誌(広報ひめじ)やホームページ	99	(51.8%)
2	医師会のホームページ	18	(9.4%)
3	救急医療協会のホームページ	9	(4.7%)
4	新聞の地域欄	27	(14.1%)
5	家族や知人から聞いた	87	(45.5%)
6	その他	28	(14.6%)



質問4：これまでに休日・夜間急病センターを利用したことがありますか。(家族が利用した場合も含む。)

No.	回答	人数	割合
1	ある(問5へ)	136	(71.2%)
2	ない(問6へ)	52	(27.2%)

質問5：問4において「ある」と答えられた方におたずねします。休日・夜間急病センターを利用した理由は何ですか。(複数回答可)

No.	回答	人数	割合
1	休日や夜間の発病で身近な医院・診療所等が診療時間外だった	134	(70.2%)
2	仕事等のために平日昼間に受診できなかった	0	(0.0%)
3	他にどこの病院へ行けばいいか分からなかった	3	(1.6%)
4	家族や知人に勧められた	2	(1.0%)
5	その他	1	(0.5%)

【質問2～5のまとめ】

問2で、休日・夜間急病センターをご存知かどうかについてお聞きしたところ、98.4%の方が「知っている」と回答されました。

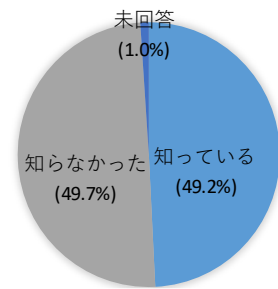
問3で、どのようにして知ったかをお聞きしたところ(複数回答可)、市の広報誌(広報ひめじ)やホームページによりお知りになった方が最も多く、次いで、家族や知人から聞いた方が多くみられました。休日・夜間急病センターについて、一定の周知が図られていることが分かりました。

問4で、本人と家族が休日・夜間急病センターを利用したことがあるかどうかお聞きしたところ、71.2%の方が「ある」と回答されました。

利用した理由については(複数回答可)、「休日や夜間の発病で身近な医院・診療所等が診療時間外だった」が突出して多く(70.2%)、休日・夜間急病センターが、休日や夜間における応急処置施設としての機能を十分果たしている状況が分かりました。

質問 6：休日や夜間における子どもの急病やけがに対して、看護師等が電話相談対応を行う、姫路市小児救急医療電話相談（079-292-4874 ふくつうしんぱいなし）があることを知っていますか。

No.	回答	人数	割合
1	知っている	94	(49.2%)
2	知らなかった	95	(49.7%)
3	未回答	2	(1.0%)



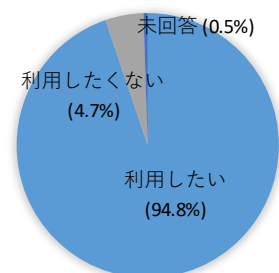
【質問 6 のまとめ】

問 6 で、休日や夜間における子どもの急病やけがに対して、看護師等が電話相談対応を行う、姫路市小児救急医療電話相談（079-292-4874 ふくつうしんぱいなし）があることを知っているかどうかをお聞きしたところ、49.2%と約半数の方が「知っている」と回答されました。

平成 21 年 8 月の事業開始以降、主に子育て世帯を対象に周知を図ってきましたが、未だ約半数の方が知らない状況であるため、より一層周知を図る必要があると考えます。

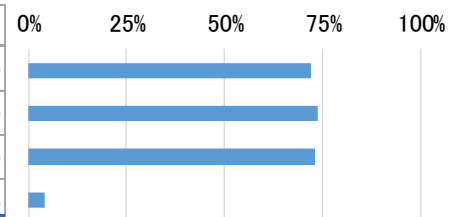
質問 7：姫路市小児救急医療電話相談のように、成人でも利用できる電話相談窓口がある場合、利用したいですか。

No.	回答	人数	割合
1	利用したい	181	(94.8%)
2	利用したくない	9	(4.7%)
3	未回答	1	(0.5%)



質問 8：成人でも利用できる電話相談窓口に対応してほしいことはどんなことですか。（複数回答可）

No.	回答	人数	割合
1	症状への対処法を知りたい	138	(72.3%)
2	受診すべきかどうか教えてほしい	141	(73.8%)
3	受診できる医療機関を教えてほしい	140	(73.3%)
4	その他	8	(4.2%)



【質問 7・8 のまとめ】

問 7 で、小児の救急医療電話相談のように、成人でも利用できる電話相談窓口がある場合、利用したいかどうかをお聞きしたところ、94.8%の方が「利用したい」と回答されました。

電話相談窓口に対応して欲しいことについては、「症状への対処法を知りたい」「受診すべきかどうか教えてほしい」「受診できる医療機関を教えてほしい」との回答がいずれも7割を超えました。その他の回答においても、緊急性の有無や医療機関・受診科の教示、救急車の要請判断について等、市民の方が成人の電話相談窓口に期待されることがうかがえる結果となりました。

質問9：休日や夜間の急病やけがに対応している医療機関を知りたいとき、どのような方法で調べますか。（複数回答可）

No.	回答	人数	割合
1	小児救急医療電話相談(姫路市救急医療電話相談:292-4874 ふくつう しんばいなし、兵庫県子ども医療電話相談#8000)	52	(27.2%)
2	広報ひめじの裏面(「休日・夜間の救急診療」ページ)	56	(29.3%)
3	保存版救急早見表(広報ひめじ令和4年9月号折込)	16	(8.4%)
4	医師会のホームページ(「救急医療について」ページ)	52	(27.2%)
5	救急医療協会のホームページ(「医療機関を探す」ページ)	33	(17.3%)
6	新聞の地域欄	20	(10.5%)
7	兵庫県医療機関情報システム	5	(2.6%)
8	家族や知人から聞く	46	(24.1%)
9	その他	43	(22.5%)

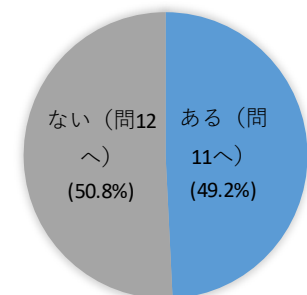
【質問9のまとめ】

問9で、休日や夜間の急病やけがへの対応医療機関の調べ方についてお聞きしたところ、広報ひめじの裏面(「休日・夜間の救急診療」ページ)が29.3%と最も多く、次いで、小児救急医療電話相談と医師会のホームページが27.2%でした。

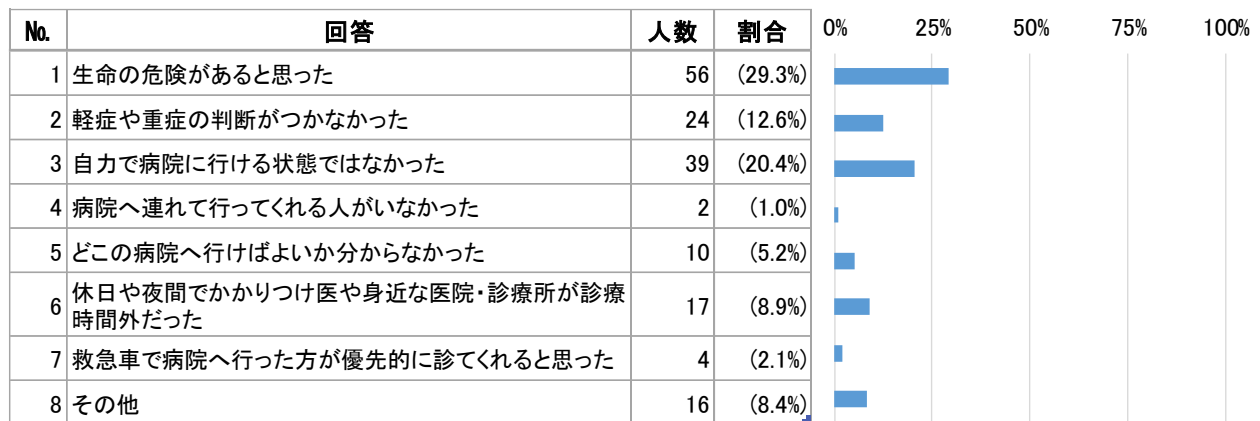
行政等が提供している情報の他、オンライン診療アプリや民間の病院検索サイトを利用されている方もみられ、インターネット媒体の利用が進む一方で、前述の広報ひめじの裏面や新聞の地域欄(10.5%)等、従来の紙媒体でお知りになる方もおられました。様々な方法で、市民の方にお知らせする必要があると考えられます。

質問10：これまでに救急車を要請したことがありますか。(家族のための場合も含む。)

No.	回答	人数	割合
1	ある(問11へ)	94	(49.2%)
2	ない(問12へ)	97	(50.8%)

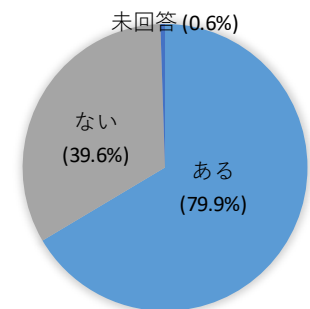


質問 11：問 10 において、「ある」と答えられた方におたずねします。救急車を要請した理由は何ですか。（複数回答可）



質問 12：救急車の適正利用について、ポスターやチラシ、SNS 等で目にしたことはありますか。

No.	回答	人数	割合
1	ある	127	(79.9%)
2	ない	63	(39.6%)
3	未回答	1	(0.6%)



【質問 10～12 のまとめ】

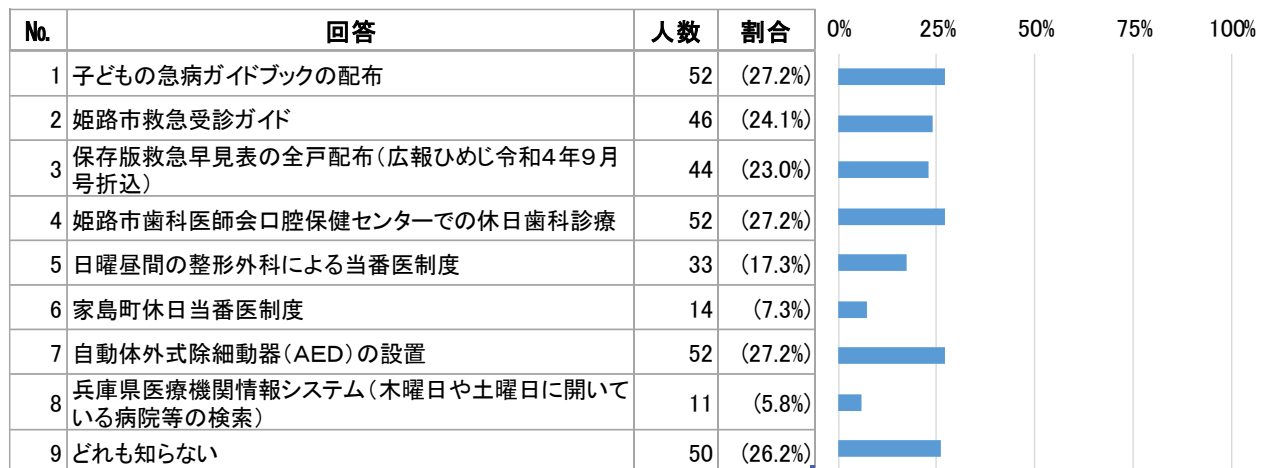
問 10 で、本人と家族が救急車を要請したことがあるかどうかお聞きしたところ、49.2%の方が「ある」と回答されました。

要請した理由については（複数回答可）、「生命の危険があると思った」「自力で病院に行ける状態ではなかった」といった緊急度の高い理由が多くを占めている一方で、「休日や夜間でかかりつけ医や身近な医院・診療所が診療時間外だった」「救急車で病院へ行った方が優先的に診てくれると思った」「病院へ連れて行ってくれる人がいなかった」といった理由も一定の割合でみられました。これらの理由による要請については、**不要不急の利用であった可能性**があります。

また、「軽症や重症の判断がつかなかった」「どこの病院へ行けばよいか分からなかった」といった理由での要請については、**市民が正しい知識や情報を得ることで、次回の要請を回避できる可能性**があると考えられます。

救急車の適正利用については、問 12 で、ポスターやチラシ、SNS 等で目にしたことはあるかどうかお聞きしたところ、79.9%の方が「ある」と回答されているため、一定の周知は図られていると考えられますが、**今後、より一層受診の必要性の判断方法や受診先の検索方法等を市民に知っていただく必要**があると考えます。

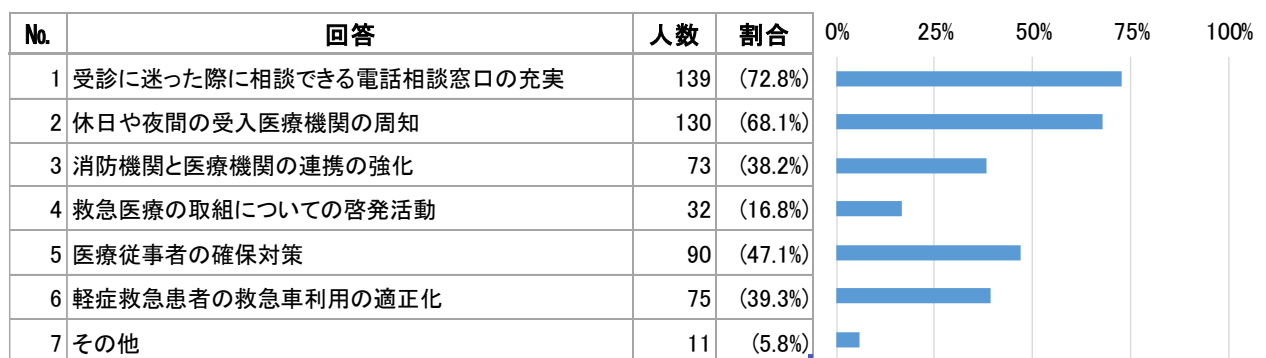
質問 13：現在、姫路市が行っている救急医療の取組の中で、休日・夜間急病センターでの救急診療や小児救急医療電話相談以外であなたが知っているものに○をつけてください。（複数回答可）



【質問 13 のまとめ】

問 13 で、姫路市が行っている 休日・夜間急病センターや小児救急医療電話相談以外の救急医療の取組 についてお聞きしたところ（複数回答可）、「どれも知らない」という回答が 26.2%と多くみられた一方で、子どもの急病ガイドブックの配布（27.2%）、姫路市歯科医師会口腔保健センターでの休日歯科診療（27.2%）、自動体外式除細動器（A E D）の設置（27.2%）、姫路市救急受診ガイド（24.1%）、保存版救急早見表の全戸配布（23.0%）についての取組が、いずれも 25%前後程度の認知度であり、事業に取り組んでいても 十分に周知が図られていない 現状がうかがえます。

質問 14：住民が安心して生活を送る救急医療体制の維持・整備には、何が必要であると考えますか。（複数回答可）



【質問 14 のまとめ】

問 14 で、住民が安心して生活を送る救急医療体制の維持・整備には、何が必要であるかお聞きしたところ、受診に迷った際に相談できる電話相談窓口の充実が、72.8%と最も多く、問 7 での回答と併せて、市民の方の 電話相談窓口の設置への期待がうかがえる結果 となりました。次いで、休日や夜間の受入医療機関の周知が 68.1%と多く、急な体調不良に陥った際の受診先の周知を強く望まれている傾向 がうかがえます。また、「医療従事者の確保対策」（47.1%）、「軽症救急患者の救急車利用の適正化」（39.3%）及び「消防機関と医療機関の連携の強化」（38.2%）といったように、急病時に速やかに病院に受け入れてもらえるよう体制の改善を求める意見 も多くありました。

質問 15：姫路市の救急医療について、ここが足りない、こうあってほしい等、ご意見がありましたら、自由にご記入ください。

【質問 15 のまとめ】

問 15 で、姫路市の救急医療について自由意見をうかがったところ、貴重なご意見を 105 件いただきました。

いただいたご意見を分類したところ（複数分類あり）、その中では、**受入医療機関の確保が 27 件と最も多く、次いで啓発活動の改善・強化（25 件）、相談窓口の確保・体制強化（22 件）、救急医療体制の強化（20 件）、急病センターの改善（18 件）**、医療従事者の確保（4 件）、その他（8 件：医療政策への提言、現状で問題なし等）となっており、市民の救急医療に対する関心の高さがうかがえました。

また、ご本人や家族が利用された経験から「急病センターがあるおかげで心強かった」「救急隊員の対応が迅速、丁寧で気遣いしてもらった」「何度もお世話になった」といった、救急医療従事者に対しての感謝の言葉をいただくこともできました。